

春日部市立 大増中学校
学校長様

平成28年 1月 21日

前略

突然のお手紙で、失礼致します。

実は、大増中学校の女子生徒さんのある光景を目に致しまして、その時の私の受けました感動と尊敬の念を、是非先生方にも知って頂きたくてお手紙致しました。

1月19日・午後4時頃、大沼体育館そばの道路に於きまして白い猫が不幸な事に、交通事故にあっておりました・・・私がそれを目撃しました時は、まだ猫には息があったように思われます。暫くして、車の運転をされていた女性が、車より降りてきて猫の様子を見に行かれていましたが、既に女子学生の方が血だらけの猫を、胸に抱き取って居られた様です。その加害者らしき女性が帰りがけに、路上で様子を伺って居りました私の所に来て、事の次第を話して下さいました。

その学生さんは、運転手の彼女に、「大丈夫です、私が動物病院に連れて行きます。」と、言って下さったとの事でした。

運転手の女性は、その言葉で安心したのでしょうか・・・車に乗り込んで去って行ってしまいました。無責任としか思えませんでした。彼女には猫をひいてしまった感覚が無かったと話しておられましたので、直接の加害者ではないのかもしれませんが！！

何れにしましても、たまたま通り掛かった学生さんが、瀕死の猫を制服が汚れるのもいとわず、ましてや病院でかかる治療費さえも構わず、「大丈夫です、私が動物病院に連れて行きます。」と、行動を起こせる、その愛と勇氣に、私は心から彼女を尊敬する次第です。本当に感動致しました。

それに比べて、見ていただけの私を含め、大人達の無関心・無責任が恥ずかしくてなり

後日、私は大沼界隈の動物病院を当り、小暮動物病院にて（大增中学校の女子生徒）さんが猫と診療に来られた事が分かりました。

お医者様のお話ですと、猫は脳挫傷で、口の中も裂けてしまい、かなりの出血で即死に近い状態だったそうです。

しかし、「女子生徒さんはしっかりされたお嬢さんで、取り乱すことなく20分位で帰って行かれた」と、お話しして下さいました。

大人の私達が出来なかった事を、ごく当たり前の様に瀕死の猫の命を救おうとした、大增中学校のお名前は分かりませんが女子学生さんに、亡くなってしまった猫に代わりに心より「ありがとう」を、お伝えしたいのです。
どうぞ、よろしくお願い致します。

寒さ厳しき折、大增中学校の先生、生徒さんの皆様が、お元気に過ごされます様お祈り申し上げます。